ASICS Tiger
GEL-MAI

■ アシックスタイガー ゲルマイ
資料提供：haruna.045

2017年に注目を集めたアシックスタイガーのひとつ“ゲルマイ”。プロダクトネームを分かりやすく表記すると“GEL舞”になる。“ゲルクッション”を搭載した、舞うように快適に動けるシューズを意味しているのだ。外見の特徴になっているのが、アシンメトリックに設計されたシューレースである。シューズのアッパーだけでなく、足首の周囲にもアイレットを用意し、巾着のようにシューレースを締められるように設計されたのだ。さらにミッドソールには独自に開発した“フューズゲル”を搭載してクッショニング性能を向上させている。様々なアイデアを盛り込んだプロダクトではあるものの、“ゲルマイ”が発売された1999年はスニーカーブームが沈静化していたタイミングであり、ストリート用のスニーカーとしては人気が出なかった。その“ゲルマイ”が現代に復刻され、人気モデルになっている理由は、“藤原ヒロシ氏が唯一所有していたアシックス”というエピソードなのだろう。ここで紹介するホワイトとブラック、そしてブルーの組み合わせがスポーティなオリジナルカラーの復刻や、アッパーをニット素材に変更したアップデートモデル“GEL-MAI KNIT”をベースに、アムステルダム発のスニーカーブティック“Patta”とコラボしたモデルなど、魅力的なバリエーションが登場している。ただ、そうした盛り上がりに水を差すつもりはないが、藤原ヒロシ氏が履いていたのはブラックの単色アウトソールだったので“ゲルマイ”ではなく、その廉価版という扱いの“ゲルフィット”のはずだ。オリジナルの“ゲルマイ”はアウトソールの前足部分がクリア素材になっていて、モデル名の“舞”という漢字が透けて見えるギミックが採用されている。手元に“ゲルフィット”の実物が無く、復刻版の“ゲルマイ”と比較できないのが残念だ。だた、現代の復刻版“ゲルマイ”が魅力あふれるスニーカーである事実は決して揺るがず、今後もストリートの人気者であり続けるだろう。上記のエピソードも、復刻版を語る時の裏話くらいに覚えておくレベルで充分。知る人ぞ知る“ウンチク”を語るよりも、今のスニーカーシーンを素直に楽しむべきだ。

ASICS Tiger
GEL-MAI KNIT

■ アシックスタイガー ゲルマイ ニット
資料提供：3110sy

独特のデザインが現代のスニーカーヘッズの感性を刺激する復刻モデル